

59

『医説』巻第二・鍼灸の典拠について

田中利江子, 橋本 典子

日本鍼灸研究会

南宋・張杲の『医説』巻之二・鍼灸は全三十六条の鍼灸条文のうち二十五条文が典拠を略示するが、情報の範囲が分明でないため、その性格を明らかにするため、典拠を調査検討した。底本には一九八一年新文豊出版公司影印の明・嘉靖二十三年(1544)顧定芳刊本を使用し、条文番号、見出し、典拠、照合資料と所載箇所を示した。『四庫全書』(台湾商務印書館)は『四』、『太平聖恵方』(オリエント出版社)は『太』と略し、『素問』は顧從徳本、二十四史は百衲本を使用した。

01 鍼灸之始—北宋・高丞撰『事物紀原』所引「帝王世紀」(『四』922冊). 02 明堂—『事物紀原』(『四』922冊). 03 妙鍼癩走—劉宋・劉穎叔『異苑』卷八(『四』1042冊の引文と『医説』は不一致). 04 鍼蕪愈鬼—唐・李延寿編『南史』卷三十二・列伝第二十二・張邵伝(32-14b09~15a07), 宋の『太平広記』所引「談藪」, 『通志』に類文. 05 鍼愈風手—『旧唐書』列伝卷第四百一・方伎141-02b01~06. 06 許希善鍼—宋・江少虞編『宋朝事實類苑』卷四十八・占相医業. 07 鍼法—『素問』陰陽応象大論(02-09b05~07). 08 鍼愈風眩—『旧唐書』唐紀卷第五05-11b14~12a02, 『太平広記』卷二百一十八・医にも類文. 09 鍼鼻生贅—唐・薛用弱撰『集異記』卷一(『四』1042冊01-17b02~18a05). 10 筆鍼破癰—唐・甘伯宗撰『歷代名医録』(佚)又は宋・周守忠『歷代名医蒙求』からの引用か. 11 鍼瘤巨虱—宋・洪邁『夷堅志』丁志・卷第八(中華書局, 1981年). 12 善鍼—宋・邵博『邵氏聞見後録』卷第二十九(中華書局, 1983年). 13 捫腹鍼兒—『医説』は宋・方勺「泊宅編」とするも、前掲『夷堅志』甲志・卷第十(中華書局, 1981年)に見ゆ. 14 鍼急喉閉—『医説』は「庚志」とするも、前掲『夷堅志』庚志からの引用か. 15? 石—『素問』異法方宜論王冰注(04-01b02~03). 16 刺誤中肝—『三国志』・魏書・卷二十九・方伎29-02a10~b02. 17 九鍼—『素問』鍼解篇(14-08a03~05, 14-08b01~03, 同篇王冰注14-08b03). 18 工鍼—宋・呉会撰『能改齋漫?』卷十一(『四』850冊11-26b03~27a03). 19 鍼舌底治舌出不收—南宋・王明清『揮塵録・余話』卷二. 20 艾謂之一壯—宋・江少虞編『宋朝事實類苑』卷五十一所引「夢溪筆談」(『四』874冊51-06b07~07a01. 『夢溪筆談』卷十八・技芸〔文物出版社, 1975年, 18-19a01~03〕所載). 21 灸背瘡—『医説』は「類編」とするも典拠未詳. 22 蒜灸癰疽—『医説』は「江寧府紫極觀因掘得石碑」とす. 23 灸瘵疾—『医説』は「類編」とするも典拠未詳. 24 灸瘵逆法—宋・蘇軾及び沈括撰『蘇沈良方』卷五(『四』738冊05-11a03~11b05). 25 灸鼻衄—『蘇沈良方』卷六(『四』738冊06-10a07~10b02). 26 灸牙疼法—『蘇沈良方』卷六(『四』738冊06-11a04~08). 27 脚氣灸風市—宋・洪邁「夷堅志」再補. 28 灸脚筋—『太』卷百(100-12b09~12b10). 29 三里類灸—典拠未詳. 30 灸頭臂脚不宜多—『太』卷九十九(99-09b12~13). 31 灸痔疾—宋・許叔微『普濟本事方』卷七・腹脇疼痛(『和刻漢籍医書集成』07-08a08~08b03). 32 灸蛇毒—『蘇沈良方』卷七所引「朝野僉載」(『四』738冊07-21b04~06. 唐・張鷟『朝野僉載』卷一に「趙延禧云」の異文.). 33 灸難產—『太』(100-32a01~02). 34 灸臍風—宋・呉処厚撰『青箱雜記』卷八(『四』1036冊08-04b03~05). 35 不宜灸—『太』卷百(100-17b09~10), 『備急千金要方』卷二十九(29-04a12), ともに一部類文. 36 因灸滿面黑氣—『医説』は「医余」とするも典拠未詳.